

4 Apr.							5 May							6 Jun.							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
		①	2	3	4	5	6				1	2	3	4						1	
7	⑧	9	10	11	12	13		5	6	⑦	8	9	10	11	2	③	4	5	6	7	8
14	⑮	16	17	18	19	20		12	⑬	14	15	16	17	18	9	⑩	11	12	13	14	15
21	⑳	22	23	24	25	26	27	19	㉑	㉒	22	23	24	25	16	⑰	18	19	20	21	22
28	29	30						26	⑳	㉑	28	29	30	31	23	㉒	㉓	26	27	28	29
															30						

「新収蔵品展」 4月2日[火]—5月6日[月・祝] 「諸派興隆—18世紀の江戸画壇」 5月8日[水]—6月9日[日] 「対立と融和—19世紀の江戸画壇」 6月11日[火]—7月15日[月・祝]

7 Jul.							8 Aug.							9 Sep.							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
		①	2	3	4	5	⑥				①	2	3	1	②	3	4	5	6	7	
⑦	⑧	9	10	11	12	⑬	4	⑤	6	7	8	9	10	8	⑨	10	11	12	13	14	
⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳	㉑	11	12	13	14	15	16	17	15	⑰	⑱	20	21	22	23	
㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	18	⑱	20	21	22	23	24	22	㉒	㉓	㉔	25	26	27	28
							25	⑳	㉑	28	29	30	31	29	㉑						

「ポップの系譜」 8月2日[金]—10月6日[日]

10 Oct.							11 Nov.							12 Dec.							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	5					1	2	1	②	3	4	5	6	7	
6	⑦	8	9	10	11	12	3	4	⑤	6	7	8	9	8	⑨	10	11	12	13	14	
13	14	⑮	16	17	18	19	10	⑪	12	13	14	15	16	15	⑰	17	18	19	20	21	
20	⑳	22	23	24	25	26	17	⑱	19	20	21	22	23	22	㉒	㉓	24	25	26	27	28
27	⑳	29	30	31			24	㉑	㉒	27	28	29	30	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘

「中澤弘光とその周辺」 10月8日[火]—12月15日[日]

1 Jan.							2 Feb.							3 Mar.							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			①	2	3	4						1		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
5	⑥	7	8	9	10	11	2	③	4	5	6	7	8	8	⑨	10	11	12	13	14	
12	13	⑭	15	16	17	18	9	⑩	11	12	13	14	15	15	⑰	⑱	17	18	19	20	21
19	⑳	21	22	23	24	25	16	⑱	18	19	20	21	22	22	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
26	⑳	28	29	30	31		23	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘

「西洋の風景画」 12月17日[火]—2020年2月24日[月・振休]



ガラスの天井から光がふりそぐロダン館。近代フランスの彫刻家オーギュスト・ロダンの作品32点のほか、ロダン以前の代表的な作家による彫刻を展示しています。本館とロダン館をつなぐブリッジ・ギャラリーとともに、西洋の近代彫刻51点を常時鑑賞できます。

# Exhibition Schedule 2019.4-2020.3

**開館時間** 10:00—17:30(展示室への入室は17:00まで)

**夜間開館** 7月6日[土]、7日[日]、13日[土]、14日[日] 10:00—19:00 (展示室への入室は18:30まで)

**休館日** 毎週月曜日 (月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館。ただし8月13日[火]は開館。) 年末年始、その他展示替等のための休館日

観覧料 単位/円	展覧会名	一般		70歳以上		高校・大学生	
		当日	前売・団体	当日	前売・団体	当日	前売・団体
	屏風爛漫	800	600	400	300	無料	無料
	古代アンデス文明展	1,400	1,200	700	600	700	600
	熊谷守一	1,200	1,000	600	500	無料	無料
	古代への情熱	1,200	1,000	600	500	無料	無料
	やなぎみわ展	1,200	1,000	600	500	無料	無料
	収蔵品展	300	200	無料			

団体料金は有料観覧者20名以上。企画展ご入場の方は、収蔵品展・ロダン館も併せてご覧いただけます。身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその付添者1名は、企画展・収蔵品展ともに無料でご覧いただけます。

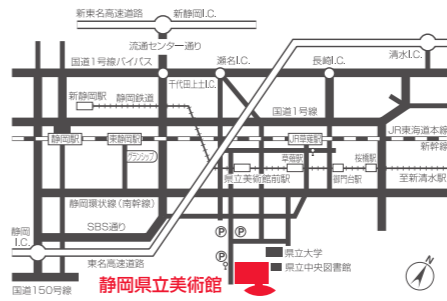
**実技室イベント** ————— ミュージアムショップ —————  
 さまざまな体験プログラムを実施しています。 展覧会カタログ、美術図書、ミュージアムグッズ等をお求めになれます。  
 スケジュールはホームページまたはパンフレット「実技室プログラムのしおり」をご覧ください。

**無料託児サービス** ————— レストラン —————  
 毎週日曜日および祝日にご利用いただけます(10:30-15:30)。 対象は、乳・幼児(6ヶ月~小学校就学前)です。 喫茶、お食事が楽しめます。美術鑑賞のあいまにお立ち寄りください。

**車椅子・ベビーカー** ————— 友の会 —————  
 インフォメーションで無料貸出いたします。 常時入会受付中。詳しくは事務局にお問い合わせください。 Tel. 054-264-0897

### 交通案内

JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分  
 JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分または北口から静鉄バスで約30分  
 JR「東静岡駅」南口からタクシーで約15分または静鉄バスで約20分  
 静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分または静鉄バスで約3分  
 東名高速道路・静岡IC、清水IC、または新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分  
 周辺に大型バスを含めて約400台を収容できる無料駐車場があります。



### お問い合わせ

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 <http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

総務課 Tel. 054-263-5755 Fax. 054-263-5767  
 学芸課 Tel. 054-263-5857 Fax. 054-263-5742



静岡県立美術館  
 Shizuoka Prefectural Museum of Art

## 屏風爛漫 ――ひらく、ひろがる、つつみこむ

4月2日[火]―5月6日[月・祝]



伊藤若冲  
《樹花鳥獸図屏風》(右隻)  
静岡県立美術館蔵

現代の暮らしの中では、ほぼなじみのない屏風。その歴史をひもとけば、絵画である前にまず調度品であり、間仕切りや風よけとして立てまわされた実用の道具でした。自立する、移動できる、形を変えられる、といった「もの」としての屏風の性質は、調度品としての使い勝手の良さに通じて

います。同時に、そこに描かれる絵のあり方も密接に関わっています。本展では、屏風という独特のかたちに備わった魅力に改めて注目し、屏風絵ならではの造形の妙をお楽しみいただきます。収蔵品を中心に精選した爛漫の屏風の世界を、どうぞ堪能ください。

## 古代アンデス文明展

5月18日[土]―7月15日[月・祝]

南米大陸、現在のペルーとボリビアを中心とした地域で、16世紀まで展開した、多種多様な文化を総称して、古代アンデス文明と呼びます。巨大な地上絵を残したナスカ文化(紀元前200年頃～後650年頃)

や、壮観なマチュピチュを築き上げたインカ帝国(15世紀前半～1572年)が、とりわけ著名です。本展では、ナスカ、モチェ、ティワナク、インカなど代表的な9つの文化から、約200点の貴重な資料を展示し、古代アンデス文明の全体像を明らかにします。人や動物を象ったユニークな土器、まばゆい黄金製品、色鮮やかな織物、そして独特な死生観を物語るミイラなどを通じ、各文化の精華と悠久の歴史をご堪能ください。



《象嵌のマスク》(前期モチェ文化)  
ペルー文化省・国立博物館蔵

## 熊谷守一 いのちを見つめて

8月2日[金]―9月23日[月・祝]



熊谷守一《瓜》ひろしま美術館蔵

熊谷守一の画業を紹介する展覧会は、当館では初めての開催となります。熊谷守一は、岐阜県恵那郡付知村(現在の中津川市付知町)に生まれ、東京美術学校を卒業した後、自然の中に身を置き、自らの感じるものを「モリカズ様式」と呼ばれる独自の様式で数多く描きました。本展では、その画業の全般を紹介しながら、とりわけ守一が愛した「花」「猫」「鳥」「虫」などをモチーフとした作品を展示します。初期作品から「モリカズ様式」が確立されてからの作品を展観し、熊谷守一の魅力を探ります。

## 古代への情熱 ――18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い

10月2日[水]―11月17日[日]

古代ローマ帝国。今も人々を魅了するその文化遺産は、芸術家の大いなる創作源となってきました。18世紀イタリアでは、ローマやボンペイなどの古代遺跡の調査が進み、考証作業に基づく著作が発表されます。一方、景観画の中でも古代の名所旧跡が愛好され、幻想に満ちた

綺想画や装飾デザインにおいても、古代ローマにヒントを得た作品が多く生み出されます。本展は、都市ローマと南イタリアに残る古代ローマの遺産を主題として、古代に寄せる芸術家の情熱から生まれた多様な展開を、16世紀から18世紀にかけてたどります。

左:ジョヴァンニ・パットリスタ・ピラネージ「コンスタンティヌス凱旋門とコロッセウム」(ローマの景観)より  
静岡県立美術館蔵

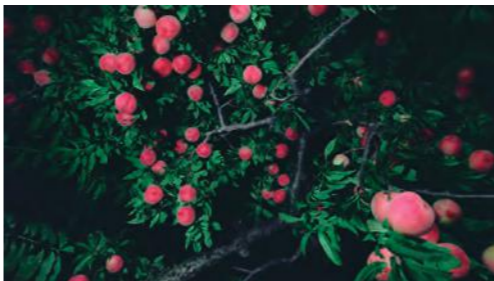
右:ユベール・ロベール《ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーリ》静岡県立美術館蔵



## やなぎみわ展 神話機械

12月10日[火]―2020年2月24日[月・祝]

1990年代から現代美術のみならず演劇界でも活躍してきた、やなぎみわの約10年ぶりとなる個展を開催します。やなぎは、「マイ・グランドマザーズ」等の一連の写真作品で世界的に評価を受け、2009年には第53回ヴェネチア・ビ



やなぎみわ  
《女神と男神が桃の木の下で別れる:川中島》(部分) 作家蔵

エンナーレ日本館代表となる一方、2010年には本格的に演劇プロジェクトを始めます。台湾製のトレーラーを母体に2016年から日本各地で行われた野外劇は大きな感動を与えました。本展では、旧作をはじめ、日本神話をモチーフに桃を撮影した新作シリーズを展示するほか、大学等と連携した「モバイル・シアター・プロジェクト」で製作する、マシンによる神話世界も展覧会場に生み出されます。

## ふじのくに芸術祭

11月24日[日]―12月1日[日]

## 収蔵品展

1.「新収蔵品展」

4月2日[火]―5月6日[月・祝]

2.「諸派興隆―18世紀の江戸画壇」

5月8日[水]―6月9日[日]

3.「対立と融和―19世紀の江戸画壇」

6月11日[火]―7月15日[月・祝]

4.「ポップの系譜」

8月2日[金]―10月6日[日]

5.「中澤弘光とその周辺」

10月8日[火]―12月15日[日]

6.「西洋の風景画」

12月17日[火]―2月24日[月・振休]

静岡県立美術館の収蔵品を中心とする展覧会を、次の会場でご覧いただけます。

11月11日[月]―12月1日[日]  
裾野市民文化センター

## 収蔵品展



1 イスラエル・シルヴェストル「古港」(《古今のローマの景観》より)



2 狩野惟信《山水図押絵貼屏風》



3 谷文晁《富士山図屏風》



5 中澤弘光《風景(秋の湖畔)》



6 クロード・モネ《ルーアンのセーヌ川》



4 ジュリアン・オビー  
《歩いているティナ》